



3・12さよなら原発 関西アクション

三・一一東北大地震、福島原発事故から六年が経過した三月十二日、「さよなら原発 関西アクション」が開催されました。

午前中は中央公会堂で河



合弘之弁護士と崎山比早子さんの講演を中心とした集会、コンサートをはじめ、午後には中之島公園女神像前で本集会が行われました。

仮処分でたたかおう

河合弘之弁護士は、午前の講演と午後の挨拶を通じて、「脱原発の戦略」として、訴訟、仮処分、デモ、集会、地元首長への圧力、パブコメ等で再稼働を遅らせようと提案しました。特に、仮処分

は近隣の地裁で一人でも起こせ、一つでも運転停止処分が出れば、次の日から原発は止まる、とても有効な方法だということです。

また、自然エネルギーの展望について語り、仮処分で時間を稼ぎながら、自然エネルギーに移行しようと話しました。

低線量被ばくの健康影響

崎山比早子さんは、午前の講演で、「低線量被

ばくの健康影響」と題する講演を行いました。

放射線によって体の設計図であるDNAが傷つけられること、その後、修復する場合もあるが、間違った修復や修復不能になる場合もあること、そしてそうした変異は細胞に溜まっていくということを分かりやすく説明しました。

そして放射線に閾値しきいちはないということ、放射線の業務に携わる人を例に挙げて説明しました（閾値とは、それより低ければ放射線の影響がないと言われている線量値のことです）。

彼らは〇・一マイクロ

シーベルト(シーベルト
 II以下Sv)であろうが
 一マイクロシーベルトで
 あろうが、線量はすべて
 足していく。それはいく
 ら低くてもDNAを損傷
 する可能性があるからで
 す。二〇ミリSv帰還政
 策の不条理についても、
 ICRP(放射線防護委
 員会)は放射線量の閾値
 はなく、リスクは線量に
 比例するのを前提に一ミ
 リSvから二〇ミリSv
 の低い方を基準とするよ
 う勧告しているが、日本
 政府は高い方をとってい
 ると指摘しました。

女性も従事していること、
 除染に数兆円かかっている
 が、それだけあれば全
 員避難できると政府のや
 り方を批判しました。

**若者と子どもは
 戻るべきではない**

福島の飯舘村から、長
 谷川健一さんが発言しま
 した。

他のところは、今でも
 一ミリSvなのに、どう
 して福島だけ二〇ミリS
 vなんですか?このこと
 はみなさん考えないとい
 けませんよ。福島が二〇
 ミリSvでOKとなった
 ら、福井の原発が事故を
 おこしたとき、これが前

例になりますよ。

まったくそうだ!と思
 いました。高線量のとこ
 ろに帰ることを強制され
 ている避難者たちのこと
 ばかり心配していたけれ
 ど、確実に明日は我が身
 なんだと。高浜原発が、
 大飯原発が、美浜原発が
 一基でも大事故を起こせ
 ば、近畿も福島と同じに
 なるのですから。

若者や子どもは被曝を
 避けて、戻るべきではな
 いと、考えている長谷川
 さんも、自身は農地が荒
 れ果てるのをみていたら
 ないと、何年か先には帰
 還を考えているようでした。

原発さえなければ、飼っ
 ていた五〇頭の牛を処分
 しなくてもよかったし、
 家族が三力所に分かれて
 避難しなくても良かった
 のに、なんとという理不尽
 なことでしょうか。

長谷川さんの他に、福
 島から京都の宇治市に避
 難している、「避難の権
 利」を求める全国避難者
 の会共同代表・うのさえ
 こさん、原子力発電に反
 対する福井県民会議事務
 局長・宮下正一さんが発
 言しました。

そのあと集会決議が読
 み上げられ、デモに出発
 しました。

アート・アド分会 N